

2021 11/9

No.2150

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
—神奈川政経懇話会—



横浜DeNAの牧秀悟選手が10月26日、今季35本目の二塁打を放ち、長嶋茂雄氏のセ・リーグ新人最多二塁打記録を63年ぶりに塗り替えた。



## contents

視点点描	3
コロナ禍で新たな役割	
経済	4
事業承継は組織変革の機会 「暗黙知」を体得するには	
社会	8
財政難、問われる文教施設 新潟県に見る「民営化」是非論	
くらし2021	10
認知症対応 知恵絞る銀行	
企業最前線	12
D C向け空調の省エネ技術 間接外気冷房や新冷媒で半減	
アジアの風	14
ベトナム中部高原の森と狂気	
NNAアジア経済リポート	15

### 事務局だより

#### ◇2021年11月定例講演会

11月19日（金）午後1時30分～3時

県民共済みらいホール（横浜市中区桜木町1-1-8-2）

講師は学校法人関東学院理事長の規矩大義氏

演題は「災害への備え～想像力こそが事業継続のカギ～」

#### ◇2021年12月定例講演会

=シンポジウム・昼食

12月9日(木)、横浜ベイシェラトンホテル＆タワーズ5階「日輪」(横浜市西区北幸1-3-23)

△シンポジウム 午前11時～午後0時30分

パネリストは、共同通信社の山根士郎・政治部長、宮野健男・経済部長、有田司・外信部長。コーディネーターは神奈川新聞社の鈴木達也・論説主幹。演題は「2022年の動向を読む」

▽昼食 午後0時30分～1時30分

お席にお弁当をご用意します。お持ち帰りもできます。

※新型コロナ感染拡大の状況によっては開催方法を変更する場合があります。

【お知らせ】神奈川政経懇話会ではホームページと会報「政経かながわ」に会員コーナーを設け、新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局☎045(226) 2121。

# 視点



## コロナ禍で新たな役割

神奈川の文化・スポーツの発展

に功績のあった個人・団体に贈られる神奈川文化賞・スポーツ賞が70回を迎えた。「文化の日」の11月3日、例年であれば県民ホールに大勢の観客が集まり、オーケストラの祝賀演奏を交えて祝つてきました。しかし、今年も新型コロナウイルス拡大防止の観点から県庁で関係者のみで贈呈式が行われた。

「神奈川を混乱と動搖から守る

祝祭感は薄くとも、五輪イヤーの今年は東京五輪・パラリンピック2020で活躍した県内選手を顕彰するオリンピック賞・パラリンピック賞も加わり、苦境を越え栄誉を手にした受賞者の姿が際立つた。混迷する社会と文化・スポーツの意義を考えさせられた節目でもあった。

在の発展の背景には、こうした文

田祐（私学教育に献身）の5氏。草創期の審査員には評論家の長谷川如是閑、東京芸大教授の村田良策、作家の大佛次郎ら氣鋭の学者・文化人らが名を連ねた。全国を先駆け文化芸術の振興に力を入れた神奈川の先見性と、人材の豊かさを見る事ができる。多くの

（神奈川新聞社文化部長

高田 久美子）

ために文化水準の向上を目指す必要がある」。戦争の傷跡が残る1951（昭和26）年秋、当時の神奈川新聞社主筆・川崎萬博が県教育長に熱く共同開催を持ちかけ、これに「結構、結構」と内山岩太郎知事が賛同し、同賞制定に至ったと記録にある。そして、翌52（同27）年に第1回の贈呈式が行われた。受賞者は、関靖（金沢文庫の研究）、平沼亮三（体育への貢献）、酒井恒（相模湾の海洋生物研究）

加藤土師萌（日吉窯の創設）、坂田祐（私学教育に献身）の5氏。映画や音楽、美術、文学、スポーツ：「豊かな象徴」とされてきたこうした文化芸術がこの一年半、コロナ禍で閉塞した多くの人の日常生活を支え、癒やしとなり希望となってきたことは言うまでもない。戦後復興のために創設された本賞もまた、新たな役割を担つた

化芸術の力に支えられた部分も多いために文化水準の向上を目指す必要がある」。戦争の傷跡が残る1年にあつたろう。

今年の受賞者もまた多彩である。文化賞には映像作家の庵野秀明、建築家の隈研吾、映画評論家の山根貞男、ファンケル創業者の池森賢二の4氏。同賞50回を機に創設され、今後の活躍が期待される若い世代に贈られている神奈川文化賞未来賞には作家の宇佐見りん、日本画家の谷保玲奈の各氏が選ばれた。